

(1) 気候変動気象データ提供システムとは

気象庁が公開している過去40年間の気象データを、全国760の主要観測所について入手し、そのデータから、平均気温、年降水量、一時間値の年間最大降水量の3つの項目について、トレンド（回帰直線の傾き）を算出するとともに、グラフ化するプログラムです。

その際、対象となる市町村が、どの観測所のデータを参照すればよいかを簡易に把握できるようにしました。調べたい市町村の市町村コードを入力すれば、参照すべき観測所の候補が複数示されます。その観測所のコード番号を入力すれば、上記のデータが入手できる仕組みです。

もととなるデータは、気象庁の過去の気象データ
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/> を使用しています



(2) 気候変動気象データ提供システムの使い方

step1 調べたい自治体の自治体コードを黄色いセルに入力してください。

その自治体内に存在する主要観測所数とその名前・観測所コード、その自治体が属する地域（北海道・沖縄は気象予測区分、他は都道府県）に存在する主要観測所数とその名前・観測所コードが自動で表示されます。

step2 調べたい観測所の観測所コードを青いセルに入力してください。

その観測所の1981年から2020年までの40年間の観測データに基づき、その観測所の年平均気温、年降水量、1時間降水量の最大値の3つのデータについて、過去の変化がグラフ化されるとともに、その回帰直線の傾きが表示されます。

step3 各自治体の温暖化対策や適応に関する計画に活用してください。

結果のグラフを画像で取り込んで各自治体の関連計画づくりに活用してください。なお、適応策に関する情報源については、気候変動気象データ提供システムに掲載しています。